

資料1

テーマ1 学校の規模・配置において検討すべきことについて

【論点Ⅰ】

テーマ1 学校の規模・配置において検討すべきことについて（論点Ⅰ）

論点Ⅰ

小規模校、大規模校のメリット・デメリットを踏まえ、学校規模の適正化やデメリットの解消・緩和にどのように取り組むべきか



第1回懇話会における主な意見（要旨抜粋）【論点Ⅰ 関係】

- ① 一番大事なのはこどもたちが豊かに育つことであり、それに焦点を当てながら考えなければならない。
- ② こどもたちの育ちを大事にしていく中で、親の願いや文部科学省の基準も踏まえながら、適正化の優先度合いも整理してもらいたい。
- ③ 24学級以上の学校では、場所の確保の問題は起きている。
休み時間にはこの学級しか遊べないなど、運動不足や思いっきり走っていないのではないかと懸念がある。
上下関係や友達の幅が狭くなるという心配も、学校では縦割り授業等学年を超えた活動に取り組んでおり、デメリットばかりではない。

テーマ1 学校の規模・配置において検討すべきことについて（論点Ⅰ）

- ④ 24学級以上の学校では、小学校の中はにぎやかで、クラス同士が切磋琢磨するクラスマッチ等の取組はすごく盛り上がる。
クラス同士で比べることができない学校は、そういうこともできないのではないかな。
- ⑤ 経験上、（大規模校より）小規模校の方がはるかに深刻。
大規模校が良いというわけではないが、はるかに教育的効果が高い。
児童生徒数が少なければ教員の注意が行き届くと言われるが、一定の生徒数がいればあまり問題はない。
- ⑥ 他市では、保護者の方々から、小規模校のためチーム活動もできないということは困るとの意見があった。
多様性の観点では、色々な子どもたちが交流をすることが大事。
- ⑦ 学校の規模及び配置の在り方を根本的に考えたときに、複数の見方ができる。
物理面では、（子どもの数が増えることにより）校舎内の場所が確保できるか、運動場はみんなで使えるかという規模の問題。
教育条件では、教材や教具が4人で一つとかにならないかという点がある。
一方で、少人数であるから話せる経験や、大人数であるから切磋琢磨できる経験もあるので、その点をどのように考えるのか。

テーマ1 学校の規模・配置において検討すべきことについて（論点Ⅰ）

- ⑧ 他には、地域が一つのポイントとなっていて、学校・家庭・地域と連携していく中で、統合・再編がうまくいくケースもあれば、地域の事情によって難しいこともある。
堺市として柔軟な取組ができるよう、考えを整理していく必要がある。
- ⑨ これからオンライン教育が進むが、個に閉じこもっていく可能性がある。
オンライン教育は大事だが、一方で、ひろがる・つながることは大事なことであり、そのような発想で問題を考えなければいけない。
- ⑩ こどもや地域の環境や状況に合わせて、学校ごとの特色を考えていかなければならない。
一方、あまりにも教育条件や規模が（自治体内で）違いすぎると、そこで行われる教育の効果的なものにあまりにも差ができ、公平性の観点から外れてしまうため、そのバランスをいかに考えるか。
こどもたちの状況、物理的な面、教育環境等を総合して考える必要がある。
- ⑪ 小学校や中学校の学級規模・配置の適正化を見ていかなければならない中で、統合・再編の話も出てくる。
- ⑫ 方向性としては、教育委員会として何をしなければならないかを整理しつつ、各学校単位では柔軟に、状況に合わせて再編できるというのが良いのではないかな。